

海外農林業情報 No. 103

目次

【世界の食料需給の動向】FAO と USDA による世界食料需給見通し……………	1
------------------------------------------	---

【世界の食料需給の動向】FAO と USDA による世界食料需給見通し

国連食糧農業機関（FAO）は、11月8日付で世界の食料需給見通しを発表しました。また、米国農務省（USDA）も同日付で、2019/20年度の穀物を中心とした農産物の需給見通しを発表しました。

それぞれの報告について、小麦、粗粒穀物、コメ、油糧種子は次の通りとなっています。

なお、FAOの見通しについては、以上のほかに砂糖、肉類、乳製品、魚介類についても含まれておりますので、ご参照ください。

小麦

FAOの報告によると、2019/20年度の世界の小麦供給は回復すると見込まれ、今年初めから続く国際価格の低下も、これを反映したものです。世界の小麦生産量は7億6,500万トンと、記録的な水準となることが予想されています。回復の大部分はEUでの増加によるものですが、ロシア、ウクライナ、米国などの主要生産国でも、前年に比べ大幅な増産が見込まれます。

2019/20年度の世界の小麦消費は、前年比1.5%増の7億5,950万トンと予想されます。このうち食用利用は人口増加とほぼ同じペースで伸びており、前年比1.1%増の5億1,800万トンと予想されます。一方、飼料向け利用や工業利用も、豊富な供給量と競争力のある価格のゆえに、押し上げられるとみられます。

生産と消費の見込みを踏まえると、2019/20年度の世界の期末在庫は、過去2番目に高い2億7,500万トン（前年度比1.9%増）に達すると予想されます。増加の大部分は中国での在庫積み増しによるもので、EUとインドでも在庫増が予想される一方、オーストラリア、ロシア、パキスタン、モロッコ、トルコでは在庫の減少が予想されています。

USDAの予測も、小麦に関し、生産量、消費量とも前年度を上回ると予想しており、それぞれ7億6,555万トン、7億5,517万トンとしています。また、期末在庫は過去最高の2億8,828万トンに達すると予測しています。

粗粒穀物

FAOの報告によると、2019/20年度の粗粒穀物の世界市場は、2018年の不作からの回復が期待されていたものの、2年連続でタイトに推移する見込みです。粗粒穀物全体の生産量

は、過去 2 番目に多い 14 億 2,500 万トンとなる見込みですが、その多くは大麦の増産によるものです。トウモロコシは、アルゼンチンとブラジルで記録的な生産量が見込まれるものの、米国では春先に主産地の中西部が降雨過多となったことで作付けが遅れ、減産が予想されることから、世界全体では、前年に比べわずかな増加にとどまる見込みです。

トウモロコシの消費は前年とほぼ同水準（11 億 4,150 万トン）と見込まれますが、このうち飼料向け利用は、この 10 年で初めて縮小に転じる見込みです。これは米国での急減によるものですが、さらに豚コレラの影響を受けているアジア諸国、特に中国でも、悪影響を受ける可能性があります。

トウモロコシの在庫は、中国で続く在庫の取り崩しと、米国での不作による在庫減少により、世界在庫は 2,500 万トン減少し、在庫率も低下すると予想されています。

USDA のトウモロコシに関する生産予測は、前月の報告に比べ米国とメキシコで下方修正され、前年度比 2.0%減の 11 億 216 万トンとしています。消費量と期末在庫については、FAO と同様、前年度を下回るとしており、それぞれ 11 億 2,627 万トンと 2 億 9,596 万トンと見込んでいます。

コメ

北半球における春季と夏季の降雨不順により、5 月以降、世界のコメ生産の見通しは悪化しており、国際価格をやや押し上げています。

2019 年の世界のコメ生産は、記録的だった 2018 年の生産量を 0.8% 下回り、5 億 1,340 万トンとなる見込みです。減産の大部分はオーストラリア、ブラジル、ナイジェリアおよび米国での天候不順によるものです。中国やインドでも減少が見込まれますが、その他のアジア地域では豊作が見込まれ、減少分を補うと予想されます。

2019/20 年度のコメの食用利用は、人口増加率をわずかに上回る伸び率で、生産量を上回る水準まで増加すると予想されます。その結果、2019/20 年度の世界のコメの期末在庫は減少が見込まれますが、それでも過去 2 番目に高い水準となっています（1 億 8,090 万トン）。在庫の減少はコメ輸入国、特に中国、バングラデシュ、インドネシアで見込まれる一方、主要輸出国、特にインドでは増加が予想されています。

USDA も、2019/20 年度のコメ生産量は前年度を下回ると予測しており、精米換算で 4 億 9,776 万トン（前年度比 0.3%減）としています。また、消費は前年度比 1.1%増の 4 億 9,401 万トン、期末在庫は 2.2%増の 1 億 7,704 万トンと予測しています。

油糧作物

FAO 報告によると、世界の油糧種子生産は 2018/19 年度に過去最高値を記録しましたが、2019/20 年度は、大豆とナタネの減産により、2015/16 年度以来の減少が見込まれています。大豆生産は、米国での作付面積と単収の減少に加え、生産者利益が魅力的でないことや天候不良により、昨年度の記録的な水準には及ばないと見込まれます。

世界のミール（油粕）の消費は、2018/19 年度のアフリカ豚コレラの影響から徐々に回復の兆しを見せています。油脂の消費量は、経済成長の停滞とバイオディーゼルセ

クターでの利用が緩慢であることから、平均を下回る伸び率となる見込みです。それでも、現時点の見込みによると、世界のミール・油脂の消費は生産を上回り、在庫の大幅な減少をもたらすと予想されます。

今後数ヶ月の油糧種子製品の価格は、南米と東南アジアの天候に加え、アフリカ豚コレラの状況や各国のバイオディーゼル政策、貿易政策に左右されます。現在予想されている在庫の減少が現実となれば、油糧種子製品の価格は、ここ数年の低水準から上昇に転じる可能性もあります。

USDA の報告でも、大豆に関して生産と在庫の大幅な減少を予測しており、生産量は前年度比 6.0%減の 3 億 3,656 万トン、期末在庫は 13.0%減の 9,542 万トンとしています。

<参考リンク>

Food Outlook November 2019 (FAO、11/8 付)

<http://www.fao.org/giews/reports/food-outlook/en/>

World Agricultural Supply and Demand Estimates (USDA、11/8 付)

<https://www.usda.gov/oce/commodity/wasde/>

米産トウモロコシ収量減 4 年ぶり低水準、洪水響く (日本経済新聞、11/12 付朝刊)

<https://www.nikkei.com/article/DGKKZO52022020R11C19A1QM8000/>

(文責：森 麻衣子)

本情報のメール配信をご希望の方は、件名に『海外農林業情報配信希望』と記入した空(から)メールを下記までお送り下さい。ご意見、ご感想もお待ちしております。 E-mail アドレス：deskb@jaicaf.or.jp
メールを送付された方には、確認メールをお送りします。送信後 2 週間以内に届かない場合は、お手数ですが 03-5772-7880 (担当：森・西野) までお電話下さいますようお願い申し上げます。なお、メール配信をご希望の方には、本ミニ情報のほか、セミナーのご案内等、当協会からのお知らせが届くことがありますので、併せてご了承下さい。

発行：(公社) 国際農林業協働協会 (JAICAF)

〒107-0052 東京都港区赤坂 8 丁目 10-39 赤坂 KSA ビル 3 階